

ST. VALENTINE'S DAY

2月14日は「聖ヴァレンタインの日」。
バレンタインデーの起源には2つの説があります。

1つは聖人ヴァレンタインに由来する説。最盛期のローマ帝国の司教、サン・ヴァレンティノ (San Valentino) は、当時の皇帝クラウディウス二世が強兵対策として兵士の結婚を禁止していたにもかかわらず、これに反対し、多くの兵士の結婚式をとり行いました。その結婚は幸せになると評判でした。また、ヴァレンティノはさまざまな病を治して奇跡を起こす司教として尊敬されていました。しかし、当時はまだキリスト教は認められておらず、絶対権力を持つ皇帝崇拝のローマ帝国の統治下では、ヴァレンティノは危険人物とされ、皇帝の命に従わない行動が怒りをもって処刑されてしまいます。

時を経て1644年、ローマ・カトリック教会の会議によってヴァレンティノに聖人の称号が与えられ、彼の生まれ故郷・テルニの町の守護聖人に任命されました。そして、ヴァレンティノは「パトロノ・デル・アモーレ《愛の守護聖人》」とされ、殉教の日2月14日は「愛の記念日」、故郷のテルニは「愛の町」として世界中に知られるようになりました。

もう1つは、古代ローマにおいて、
田園と牧人の神・ファウヌスをたたえて
行なわれていた祭事を起源とする説。
ファウヌスは、狼を遠ざけるものを意味する

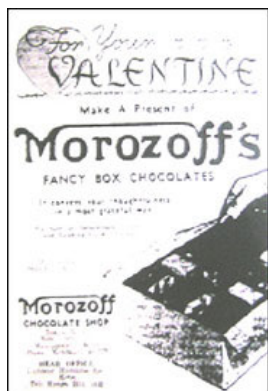
ルペルクスとも言われ、神殿が建立された2月15日を記念日とし、豊穡を祈り「ルペルカリア祭」が行なわれました。獣の皮を被った司祭・ルペルクスが見物人(主に女性)を皮紐で打ち、多産安産を祈願しました。

時代を経て、祭りでは、男性が女性の名前を書いた紙を引き当てるくじ引きが行なわれるようになりました。前日の2月14日夕方に若い未婚女性は名前を書いた紙を入札、翌15日に男性がその紙を引き、引き当てた女性と祭りの間、時には翌年の祭りまで、付き合うこととされました。

この祭りを起源とし、2月14日に男性が自分の好きな女性に愛を綴った手紙を出すようになりました。さらに、家族の間で愛の教訓と感謝の心を記した日記を交換しあう習慣などさまざまな説を取り込んで、男女の愛の記念日として定着してきました。

日本で初めて、バレンタインデーが
紹介されたのは1936(昭和11)年。
多くの《はじめてものがたり》を持っている
ここ神戸の街でした。

新聞記者から愛の記念日の話を聞いた「モロゾフ」のオーナーが、2月12日付の英字新聞「ジャパンアドバタイザー」に、バレンタインにはチョコレートを贈ろう、と広告を掲載しました。愛の贈り物として、恋人や家族、親しい方へチョコレートをプレゼントする習慣はここから始まったといえます。



しかし、バレンタインデーが現在のように定着したのはずっと後のこと。1958(昭和33)年伊勢丹新宿本店でメリーチョコレートが開催したバレンタインセールがきっかけです。やまとなでこの日本女性はなかなか自分の思いを伝えられない。そこで、恋心をチョコレートに託して贈る日として、大々的にアピールしたのです。女性の心をとらえたこのイベントは、一気に日本全国に広まっていきました。

日本のバレンタインデー発祥の地・神戸市に
1992(平成4)年、イタリアのウンブリア州
テルニ市から「愛の像」が贈られました。
「神戸市立布引ハーブ園」グラス
ハウス内にある香りの温室で
たくさんのお花に囲まれ
ながら恋人達の
愛の成就を見守っています。

